

特別支援学級（すみれ・なのはな・ひまわり学級）

1 研究テーマ

表現力・コミュニケーション力を高める指導方法の工夫
－教師・級友とのやりとりを通して－

2 育てたい力

◆表現力

- 欲求や思いを自分なりの伝達手段で表せる力 ※（対ひまわり学級児童：喃語・表情を引き出す）
- 相手からの話しかけに気持ちを向けて素直に応じられる力
- 感覚や感情を言葉や文字で表せる力
- 聞き止めて聞き分けて、表現できる力

◆コミュニケーション力

- 自分なりの表現の仕方と相手とやりとりができる力
- 楽しい自然な雰囲気の中で会話ができる力
- 相手に気持ちや視線を向けて話を聞ける力
- 欲求や思いをある程度整理して話せる力

3 研究の視点と手だて

〔視点1〕言語交流を促すための支援の工夫（生活全般）

- ・構えや飾りのないリラックスしたかかわり
- ・熱心に耳を傾ける姿勢
- ・子供の感情に付きそう温かいふれあい
- ・ゆとりのある姿勢
- ・子供をあるがままに受け入れる姿勢
- ・ほどよい心理的距離

〔視点2〕子供が楽しく自由に言語活動ができる指導内容の工夫

- ・子供にわかりやすい指導内容の工夫（活動の流れをある程度の固定化・パターン化）
- ・静（言語活動）と動の活動を取り入れ生活のリズム作りの工夫
- ・日常生活の中で自然な雰囲気の中で自由な言語活動ができるようにするための工夫

〔視点3〕言語活動の日常化

- ・自由な会話とマナーのある会話がある程度使い分けができるように他教科との関連を図る
- ・学習活動や遊びの中での子供のつぶやきを大切にし自発的言語活動を促す

〔視点4〕子供一人一人の実態（言語課題）に応じた指導方法の工夫

- ・促し（うながし、あいづち、適切な質問）
- ・繰り返し（再質問の工夫）
- ・要約（整理統合の手伝い）
- ・解釈（原因と結果の整理）
- ・質問（考えの誘導）
- ・指摘（共感受容からの矛盾の指摘）
- ・励まし（賞賛と励ましからの自信）
- ・保証（不安や恐れを除去）

特別支援学級（すみれ・なのはな・ひまわり学級）

【成果と課題】

特別支援学級では表現力・コミュニケーション力を高める指導方法の工夫という校内研究のテーマにせまるために学習活動や遊び等、日常生活の様々な場面を通して研究に取り組んできた。研究の視点と手だてを通して明らかになった成果と課題については以下のとおりである。

【成果】

【視点1】言語交流を促す支援のあり方（生活全般）

- 表現力やコミュニケーション方法に多くの課題をもつ子供たちに対する言語刺激については生活の中の様々な場面で指導者側の意図的・自然発生的働きかけが大切である。子供との信頼関係を自然な形で築くことで実態に応じた構えのない自然な楽しい会話が多くできるようになった。また、子供同士の会話にも適宜介入し「会話のつなぎ」の役目を果たすことも大切である。

【視点2】子供が楽しく自由に言語活動（朝の会等）ができる活動内容の工夫

- 一日の生活のリズム作りのための朝の会では3学級の児童が全員で会話を楽しむことができる大切な時間である。活動内容をある程度一定化し繰り返すことで活動への見通しが立つようになり、活動中のつぶやきや質問、指導者側からの問いへの返答など対人との言葉の遣り取りが活発になってきた。
- 子供たちは「動くことで学習する」という原理を応用し静と動の活動をバランスよく取り入れたことにより、その時々感情や感覚を少しずつ言葉で表すことができるようになってきている。
- 児童個々の言語活動の喚起には楽しさの要素を不断に取り入れる必要がある。活動の楽しさを体感できると実態に応じた言語活動が促される。喃語段階の児童も雰囲気を感じ教師の働きかけに呼応し感情表現も豊かになった。それぞれの興味関心に応じた対応を心がけることで話題が広がり会話の楽しさを味わうことができた。

【視点3】言語活動の日常化

- 絵日記や思い出発表に意欲的に取り組むことにより、自身の発表力、発表している子供への傾聴力、関心のもてる内容に対する聞き止める力や聞き分ける力が大きく育ってきた。また、記憶をたどり話す力も少しずつ伸びてきている。
- 一人一人の個性は豊かである。その個性に応じた自然な雰囲気の中での会話を大切にすることで自分なりの表現の仕方での遣り取りが少しずつ上手になってきている。
- 絵日記への積極的な関心と取り組みを他教科との関連において利用することで文字での表現力や実態に応じた言語能力の広がりの中で向上が見られた。

【視点4】子供一人一人の実態（言語課題）に応じた指導方法の工夫

- 表現力やコミュニケーション力の向上を図るために日常的に以下に掲げる指導方法をその時々の子供の心理状態を勘案し工夫した。
 - ①促し・・・うなずき、相づち、適切な質問などの最小限の励まし。
 - ②繰り返し・・・自分の言葉を相手の応答からもう一度聞くことによって相手に言い尽くされていない感情に気づいてもらう。
 - ③要約・・・頭の中を整理する手伝い。
 - ④解釈・・・原因と結果を整理して繰り返し課題を見つける。
 - ⑤保証・・・不安や恐れなどの感情を抱いている相手を安心させる。
 - ⑥質問・・・相手が考えているそのままの答えを導く。
 - ⑦指摘・・・共感受容の後、相手の矛盾を指摘しありのままの認識を促す。
- 上記の指導方法を平素の生活場面で意図的に取り入れた結果、子供たちは話すことの楽しさを大いに感じられるようになってきている。また共感の意を込めた自発語の増加、記憶をたどった発言力の向上、聞き止め、聞き分けて思いを言葉で相手に返す力が伸びた。

【課題】

年間を通し毎日、特別支援学級在籍児が一堂に会しコミュニケーションをとれる学習の機会を設定することは表現力やコミュニケーション力の育成にひじょうに大切なことである。児童個々の表現力の実態は様々であるが、自分の力に応じたコミュニケーションの仕方での学習活動を楽しみ、その楽しさを共有することができるようになってきている。今後は①各指導形態における指導内容の工夫と吟味②児童個々の言語活動への整理統合のための補助の在り方③自発的言語の受容を含めた家庭との言語環境を整えるための連携④文字での自己表現活動も含めた他教科との関連も十分に考慮していかなくてはならないと考える。